第20回芸術祭参加

# 日本音楽集団第二回演奏会

昭和40年10月15日（金）午後７時／新宿西口・朝日生命ホール

# 曲　目

## 1．日本楽器のための前奏曲／三木稔作曲

この前奏曲は古典風な幽玄な導入部を持つ演奏会用“序曲”の趣きを持ち、同時に日本の音楽のいくつかの要素を短時間に集約して、印象派以降の“前奏曲”的な雰囲気を内包している。旋律および和声は作曲者の最近の一つのメカニズムになっている「拡大された陰・陽旋法の範ちゅう内に律せられているようであり、固定化しないテンポと共にこの曲の特質を形成している。(演奏時間約８分)

## 2．日本楽器による子供のための組曲／長沢勝俊作曲

第１章　軽やかにのびのびと
第２章　ゆったりと、歌う感じで
第３章　遊戯唄風におどけて
第４章　しずかに子守唄風に
第５章　激しく律動的に

日本楽器を媒体として活き活きとえがき出された子供の世界である。ラジオやテレビのコマーシャルソングを口ずさんで育った現代っ子にも新鮮な感動を与える力を持っている。それは我々の祖先が伝承し、また常に新しく生み続けてきた民族の歌であるともいえよう。（演奏時間約15分）

## 3．オーボエと日本楽器のための断章／元橋康男作曲

第１章　アンダンテ・エスプレシーヴォ
第２章　アレグロ・モデラート
第３章　レント・カンタービレ

旋律的なオーボエの「清流」と、打絃的な日本楽器の「律動」、この相反する二つのものの対比の中を尺八の保続音的な対旋律がとりもっている。独奏オーボエと、日本楽器のグループとの音の融合をはかった作品である。オーボエの旋律は日本人の民族的ノスタルジーを情緒的に描いている（演奏時間約15分）

―――――― 休憩15分 ――――――

## 4．三つの阿波のわらべ歌／三木稔作曲

1．中の中のこぼうさん　－　アンダンテ
2．子守唄　－　アダジエット
3．猫の嫁入　－　アレグレット

阿波はわらべ歌の宝庫である。しかし中には歌詞しか残っていないものもあり、この曲では伝承された旋律と、ふるさとのイメージをもとに作曲者によって作られた想像の旋律とが、たくみに混交して使用されている。「中の中のこぼうさん」は「かごめかごめ」と同種類の遊戯であり、「子守唄」は殆んど創作による作曲者の望郷の歌である。また「猫の嫁入」は同名の手まり唄による、快活で小さなバラードである。なお、器楽部分は揆絃楽器を主体とし、尺八は第２曲、打楽器は第３曲にのみ演奏される。（演奏時間約11分）

## 5．愛の架け橋／和田邦恵作「愛の民話」より。中江隆介作詞・長沢勝俊作曲

「愛の架け橋」について　　中江隆介

これの歌詞および作曲のモチーフは、和田芳恵著「愛の民話」(講談社版）の中におさめられている信州南安曇郡の梓川の急流に架けられた「雑食橋」(ぞうしばし）にまつわる民話のモチーフをそっくり頂いて出来あがったものである。

この雑食橋には橋杭がない。山と山とが迫った両岸の間は約30メートル、その両岸から材木をつみあげ、せり出して行って、つないで作った橋である。このような橋のアイデア、いまでいうデビダーク工法を思いついたのが、その一方の岸の島々というところのお大尽の家に使われていた、お作という14の娘だったという。

お作は三つの時に疫病で両親を亡くした孤児だったが、朝早くからの馬草刈りから、夜は仕舞風呂の湯をおとして寝床にはいるまで、一刻もじっとしていない働き者だった。そのお作が14才になった時、川向うの若者に恋をしたのである。どこで知り合い、どんなところが好きになったのか、それは伝えられていないが、はじめは岸の岩によじのぼり、とどかぬ思いに泣いては別れるばかりであった。しかし、どうしても添いとげたいと心に決めたお作は、お大尽の家の仕事以外に、人が寝静まってからも働いて賃とりをし、それがたまると材木を買い、一本一本川岸に運んで積みあげていった。川向うの若者も貧しい作男らしかったが、お作にならって積みあげていった。

こうして10年、両岸から角のように材木がせり出して行くのを、見て見ぬふりをしていたお大尽も、村の人たちも、とうとう黙って見ていられなくなり、手をかして完成させてやったそうである。

それはお作と佐助の恋の成就であると共に、村と村をつなぐ橋ともなったのである。（演奏時間約18分）

# PROGRAMME

## 1. PRELUDE FOR JAPANESE INSTRUMENTS / by Minoru Miki

(8min.)

## 2 SUITE FOR CHILDREN BY JAPANESE INSTRUMENTS / by Katsutoshi Nagasawa

1. Leggiero
2. Andante cantabile
3. Allegretto scherzando
4. Dolce cantabile (as a "Lyllaby")
5. Agitato ritmico

(15min.)

## 3. CONCERTO FOR OBOE AND JAPANESE INSTRUMENTS / by Yasuo Motohashi

1. Andante espressivo
2. Allegro moderato
3. Lento cantabile

(15min.)

(interval 15min.)

## 4. THREE BALLADS FOR CHILDREN OF "AWA" PROVINCE / by Minoru Miki

1. Circle play, Andante
2. Lull'a-by, Adagietto
3. Marriage of the Cat, Allegretto

(11min.)

## 5. BRIDGE OF LOVE / from "Folk stories of love" by Kunie Wada.

Words by Ryusuke Nakae. Music by Minoru Miki.

(18min.)

## 〔出演者〕

| | |
|---|---|
| 箏 | 野坂恵子 |
| 〃 | 白根きぬ子 |
| 〃 | 大久保玲子 |
| 十七絃 | 宮本幸子 |
| 三絃 | 杉浦弘和 |
| 琵琶 | 山田美喜子 |
| しの笛 | 向山英一郎 |
| 尺八 | 宮田耕八朗 |
| 〃 | 横山勝也 |
| 〃 | 山本邦山 |
| 打楽器 | 田村拓男 |
| 〃 | 高橋美和子 |
| オーボエ | 吉水洋 |
| 独唱 | 木村宏子 |
| 合唱 | 日本合唱協会 |
| 指揮 | 三木稔 |
| 〃 | 長沢勝俊 |
| 〃 | 元橋康男 |
| 〃 | 横山千秋 |

## 〔PLAYERS〕

| | |
|---|---|
| KOTO | Keiko Nozaka |
| 〃 | Kinuko Shirane |
| 〃 | Reiko Okubo |
| JUSHICHI-GEN | Sachiko Miyamoto |
| SAN-GEN(SHAMISEN) | Hirokazu Sugiura |
| BIWA | Mikiko Yamada |
| SHINOBUE(Banboo flute) | Eiichiro Mukaiyama |
| SHAKUHACHI(Bamboo pipe) | Kohachiro Miyata |
| 〃 | Katsuya Yokoyama |
| 〃 | Hozan Yamamoto |
| PERCUSSION | Takuo Tamura |
| 〃 | Miwako Takahashi |
| OBOE | Hiroshi Yoshimizu |
| VOCAL SOLO | Hiroko Kimura |
| CHORUS | Japan Charal Society |
| CONDUCT | Minoru Miki |
| 〃 | Katsutoshi Nagasawa |
| 〃 | Yasuo Motohashi |
| 〃 | Chiaki Yokoyama |

## 〔賛助出演者〕（出演順）

### 向山英一郎（しの笛）

昭和16年、岐阜に生まる。40年3月、東京芸術大学邦楽科を卒業。在学中、福原百之助氏に笛を師事す。

### 山田美喜子（琵琶）

台北州立台北第一高等女学校卒業。同校家政科および研究科卒業。8才より箏（生田流）を、10才より筑前琵琶を学ぶ。後、宮城道雄門人となる。現在、宮城社師範。さらに箏美会を結成し、門人養成にいそしむかたわら、女学生時代に学んだヴァイオリン、オルガンを基に現代琵琶を研究し、その奏者としてテレビその他で活躍している。

### 山本邦山（尺八）

昭和24年、都山流・中西蝶山師に入門。33年、京都外国語大学卒業。パリ世界音楽祭に正派家元・中島雅楽之都（なかじまうたしと）師に随伴し、尺八日本代表として出席。B.A.M.レコード吹込。唯是震一師とイギリスおよび中近東イスラエル各地巡演。34年、第一回尺八リサイタル開催。37年、正派音楽院楽理科卒業。第13回東京新聞主催邦楽コンクールに作曲部門第1位。NHK技能賞、日本三曲協会賞受賞。39年、都山流大師範に昇格。

### 高橋美和子（打楽器）

東京芸術大学打楽器科4年に在学中。小宅勇輔氏に師事している。

### 吉水　洋（オーボエ）

昭和5年生まれ。北海道出身。北海道大学卒業。鈴木清三氏に師事す。東フィル、日フィルの団員を経て、現在読売日響の団員。ツイス五重奏団のメンバー。

### 日本合唱協会（合唱）

音楽大学出身の豊かな合唱歴を持つ団員により、昭和38年に結成された日本では数少ないプロ合唱団の一つで、混声24名よりなっている。緻密で精美なハーモニーはすでに定評があり、毎年定期公演のほか、テレビ、ラジオ等を活動の場として、クラシックからポピュラーまで巾広く活躍している。昨年より石丸寛氏、若杉弘氏を常任指揮者として迎えている。

### 木村宏子（メゾ・ソプラノ）

昭和32年、東京芸術大学声楽科卒業。33年、同専攻科卒業。関種子、佐々木成子両氏に師事。32年度文化放送音楽賞受賞。34年、オペラ「フィガロの結婚」のケルビーノでデビュー。その他「椿姫」「マルタ」「リゴレット」等のオペラに出演。また34年より毎年N響の特別公演「第九」のソリストとして活躍している。37年、第一回リサイタルを開催。二期会々員。

# 〔日本音楽集団同人〕

**野坂恵子**（箏）

昭和38年、東京芸術大学邦楽科（本科・専攻科）卒業。36年、箏〈泉会〉結成、毎年定期演奏会を持ち、現在に至る。40年、第一回リサイタルを開催。現在、箏〈泉会〉会員、宮城室内楽団々員、日本音楽合奏団特別会員、東京芸術大学副手。

**白根きぬ子**（箏）

昭和35年、東京芸術大学邦楽科（本科・専攻科）卒業。34年、ウィーンにおける世界青年平和友好祭に参加して民族音楽コンクールに入賞。36年、箏〈泉会〉結成。毎年定期演表会を持ち、現在に至る。現在、箏〈泉会〉会員、宮城室内楽団々員、日本音楽合奏団特別団員。　奏

**大久保玲子**（箏）

昭和37年、正派音楽院音楽科卒業、卒業後、唯是震一氏に師事、正派合奏団入団。38年、ＮＨＫ邦楽技能者育成会卒業。

**宮本幸子**（十七絃）

北海道旭川市に生まる。旭川にて小田桐雅香氏に師事。昭和35年、邦楽コンクール演奏部門３位入賞。39年、第１回カイロ国際民族芸術祭参加。現在、正派邦楽会大師範、正派合奏団員、正派音楽院教授、箏〈泉会〉会員、日本音楽合奏団特別会員。

**杉浦弘和**（三絃）

昭和10年生まれ。28年、東京芸術大学邦楽科入学。32年、同研究科入学、長唄「東音会」発足と同時に入会。33年、東京芸術大学邦楽科副手となり、現在に至る。

**宮田耕八朗**（尺八）

昭和13年、東京都に生まる。昭和36年、宮城室内楽団入団。現在、フリーな立場で演奏活動に専念するかたわら後進の指導にあたる。

**横山勝也**（尺八）

昭和９年、静岡県に生まる。祖父篁村、父蘭畝に琴古流を学ぶ。34年、上京して福田蘭童、海童宗祖氏に師事。35年、ＮＨＫ邦楽育成会卒業。37年、世界青年平和友好祭ヘルシンキ大会に参加。現在、代々木に稽古所を開くかたわら演奏活動を行なっている。

**田村拓男**（打楽器）

昭和10年、島根県に生まる。東京芸術大学委託生として２年間修業、マリンバを朝吹英一氏、打楽器を小宅勇輔氏、ピアノを滝崎鎮代子氏に師事。元東フィル団員。37年独奏会を開く。現在、東京マリンバグループ会員、東京放送管弦楽団所属。

**横山千秋**（指揮）

昭和６年、青森市に生まる。31年、東京芸術大学卒業。27年より斉藤秀雄氏に指揮法を学び、日本青年交響楽団、群馬フィルハーモニー交響楽団を指揮。36年、東京混声合唱団を指揮してデビューし、労音・放送などで活躍。その後フリーとなり、邦人作品の演奏、紹介につとめている。現在、日本合唱指揮者協会理事、また新交響楽団常任指揮者としても活躍している。

**長沢勝俊**（作曲）

大正12年、東京に生まる。昭和18年、日本大学芸術学部中退。24年、人形劇団プークに入団、人形劇の作曲を始める。後、青年の会に入会。大沢和子、清瀬保二氏に師事。37年、人形劇フェスティバルに参加のため渡欧、ヨーロッパ各国を遊学。主要作品「合唱曲・鹿踊りのはじまり」「フルートとピアノのためのソナタ」他。

**三木　稔**（作曲）

昭和５年、徳島市に生まる。30年、東京芸術大学作曲科卒業。池内友次郎、伊福部昭の両氏に師事。主要作品「トリニタ・シンフォニカ」「バリトン独唱、男声合唱およびオーケストラのためのレクィエム」「管弦楽のためのコントラスト」「合唱による風土記－阿波」「オペレッタ：牝鶏亭主」「絃と日本楽器のための協奏曲」「くるだんど」他。

**元橋康男**（作曲）

昭和11年、東京に生まる。34年、日本大学芸術学部音楽科卒業。貴島清彦、村田英夫、伊藤隆太の諸氏に師事。主要作品「交声曲：勧進帖」「木管五重奏曲」「幻想曲：日本の庭」「協奏三章：京琴」「交声詩曲：マリモーアイヌ伝説」「尺八とピアノのための瞑想曲」他。

**鞍掛昭二**（ディレクター）

昭和８年、東京生まれ。32年、東京芸術大学楽理科卒業。ツイス五重奏団ディレクター、帝京短期大学講師、リズムの会々員。

**内藤克洋**（マネージメント）

昭和２年、兵庫県生まれ。26年、国学院大学文学部卒業。東京音楽社社長。